

「2014年度決算説明会」主な質疑応答

1. イズミット湾横断橋のキャットウォーク落下事故に伴う、2014年度における工事採算変動額と2015年度におけるリスク影響額は？
 - ・キャットウォークが落下する前の状態に戻すためには3ヶ月程度かかり、復旧費用として全体で約21億円を要する見通しである。そのうち2014年度で18億円を織り込み、2015年度で3億円を予定している。キャットウォーク復旧費用と、3ヶ月遅れることによる資材などを確保する費用が中心となる。
納期遅延を起こした場合、契約上は遅延損害金が発生することになっているが、工期短縮の検討を鋭意進めており、信頼関係を構築しているお客さまとの協議を通じて遅延損害金の発生を回避していきたい。なお工期短縮のためのキャッチアップ費用については、工程見直しを精査している状況であり、合理的に見積もれないことから、2015年度の業績予想には織り込んでいない。
2. イズミット湾横断橋キャットウォーク落下事故の原因究明状況は？
 - ・原因調査中にあるが、現在までに分かっている範囲で言うと、キャットウォークを支える部品の材料に何らかの欠陥があったのではないかと推測される。
3. 2015年度の民間向け航空エンジンの販売台数（見通し）が2014年度並みだが？
 - ・新型航空機であるエアバス A320neo 向けの新型エンジン PW1100G が増加し、現行エンジン（V2500）が減少という「端境期」にあたり、台数的にはあまり変わらない状況にある。
4. アトランチコスル造船会社（EAS）で特別損失を計上したが、今後追加的な費用が発生する可能性はあるのか？また、債務保証はまだ残っているのか？
 - ・EASの状況は、我々の立場で言うと「損失を如何に最小限に留めるか」ということをやっているところである。EASの今後の事業計画が再建できる見通しであれば、また、ブラジル側株主との協議や、ブラジル政府の支援状況などの環境整備次第では何らかの支援をしていく考えにある。但し、そうでない場合は、清算や民事再生も含めた処置の可能性もある。現在実行している債務保証については、その相当額を2014年度に全て損失計上し引当済である。
5. 先般のある米国投資家からの公開書簡に対する見解は？
 - ・当社としては、これまでも全ての投資家と建設的な対話を行っており、指摘頂いたことについては真摯に受け止めて、できる限り対応する姿勢にある。例えば、ポートフォリオ・マネジメントやプロジェクト管理の強化施策などを行なってきたり、株主利益の最大化を実現できるような取り組みに引き続き努めていく。
6. 2015年度の設備投資額900億円は、前年度比で+261億円の大幅増加となるが、その主な内容は？
 - ・主なものとしては、①航空・宇宙・防衛事業で新型エンジン PW1100G の量産開始に向けた設備増強、②産業システム・汎用機械事業で車両過給機のグローバル展開推進投資、③社会基盤・海洋事業でベトナム生産拠点の強化、④資源・エネルギー・環境事業でファイナンス・リースを活用した震災復興案件（焼却設備）投資などを検討している。

以上